

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-144306

(P2003-144306A)

(43) 公開日 平成15年5月20日 (2003.5.20)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 H 13/04

識別記号

F I

A 4 7 H 13/04

キーワード (参考)

2 E 1 8 2

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-348038 (P2001-348038)

(22) 出願日 平成13年11月13日 (2001.11.13)

(71) 出願人 000148151

株式会社川島織物

京都府京都市左京区静海市原町265番地

(72) 発明者 山中 清裕

京都市左京区静海市原町265番地 株式会

社川島織物内

(74) 代理人 100081891

弁理士 千葉 茂雄

Fターム (参考) 2E182 A4D1 A804 AC17 DG01 DH01

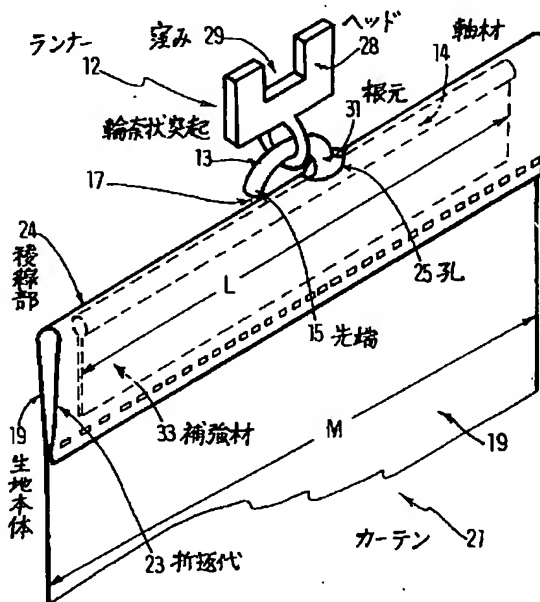
DH03 EE01 EG01

(54) 【発明の名称】 カーテンとカーテンフック

(57) 【要約】

【課題】 カーテンを開いて出来る装溜りの嵩を少なくし、車両や建物等の窓や出入口等の開口部を広く開放することが出来るようにする。又、カーテンの開閉使用時にカーテンフックがカーテン生地につまみ掛かったり、カーテンフックに擦られてカーテン生地が損傷することがないようにする。

【解決手段】 カーテンレール11を走行するランナー12に引っ掛ける輪奈状突起13が軸材14から突出しており、その輪奈状突起の先端15と軸材の周側面16の間にランナーを押し込む押込隙間17が形成されており、その先端15を含む輪奈状突起13の全体と軸材14が同一平面内に位置するカーテンフックを、その軸材14をカーテン生地19の上縁20に合わせて取り付け



【特許請求の範囲】

【請求項1】 カーテンレール(11)を走行するランナー(12)に引っ掛ける輪奈状突起(13)が軸材(14)から突出しており、その輪奈状突起の先端(15)と軸材の周側面(16)の間にランナーを押し込む押込隙間(17)が形成されており、その先端(15)を含む輪奈状突起(13)の全体と軸材(14)が同一平面内に位置するカーテンフック。

【請求項2】 前掲請求項1に記載の輪奈状突起(13)が、軸材(14)を弦とする円弧状に軸材(14)から突出している前掲請求項1に記載のカーテンフック。

【請求項3】 前掲請求項1に記載の輪奈状突起(13)が、軸材(14)を一辺とし、その輪奈状突起(13)を二辺とする三角形に軸材(14)から突出している前掲請求項1に記載のカーテンフック。

【請求項4】 カーテンレール(11)を走行するランナー(12)に引っ掛ける輪奈状突起(13)が軸材(14)から突出しており、その輪奈状突起の先端(15)と軸材の周側面(16)の間にランナーを押し込む押込隙間(17)が形成されており、その先端(15)を含む輪奈状突起(13)の全体と軸材(14)が同一平面内に位置するカーテンフック(18)が、その軸材(14)をカーテン生地の上縁(20)に合わせて取り付けられているカーテン。

【請求項5】 カーテンレール(11)を走行するランナー(12)に引っ掛ける輪奈状突起(13)が軸材(14)から突出しており、その輪奈状突起の先端(15)と軸材の周側面(16)の間にランナーを押し込む押込隙間(17)が形成されており、その先端(15)を含む輪奈状突起(13)の全体と軸材(14)が同一平面内に位置するカーテンフック(18)が、所定の幅Wに芯材(32)によってセットされたカーテン生地の上縁(20)の先端部と後端部の2箇所に取り付けられており、それら先端部と後端部との2箇所のカーテンフック(18)をカーテンレール(11)を走行するランナー(12)にそれぞれ連結し、所定の幅Wを保ってカーテンレールの長さ方向に開閉される隣合う2枚のパネル型カーテン(22)の中の1枚の上縁(20)の一端に連結されたランナー(12a・12b)が、その隣合う2枚の中の他の1枚の上縁(20)の先端部と後端部に連結された2箇所のランナー(12a・12b)の間に介在するパネル型カーテン装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、カーテン生地の上縁に取り付けたカーテンフックを、カーテンレールを走行するランナーに引っ掛けて吊るし、水平方向に開閉して使用されるカーテンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 慣用されるカーテンフック36は、ランナーに引っ掛けるための先端37が下向きになった下向き鉤38と、カーテン生地の上縁部分に引っ掛けるための先端が上向きになった上向き鉤を、軸材を介して連結して構成され、概してN字形を成している。通常、カーテン生地19は、上縁部分にテープ芯地を取り付けて折り返し、或いは、折り返した上縁部分の折返代にテープ芯地を取り付けて仕立てられている。カーテンフック36は、その上向き鉤を上縁部分の折返代かテープ芯地に差し込んでカーテン生地19に取り付けられている(図7)。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 カーテン生地に取り付けられたカーテンフック36は、その下向き鉤38がカーテン生地19の表面に対して直角に突出した恰好になる。このためカーテン21を開けて引き寄せると、折り畳まれたカーテン生地とカーテン生地の間を下向き鉤38の突出高さHに相応する隙間30が出来、カーテンフック36の下向き鉤38の突出高さHとカーテン生地19の厚みを合計した分厚い寸法Kの贅溜り34がカーテンレール11の片隅に出来る。このためカーテン21の取り付けられている車両や建物等の窓や出入口等の開口部では、カーテン21を開けてもカーテンレールの長さと同程度に広く開放することは出来ず、カーテン21を開けて開放される開口部の幅は、カーテンレールの長さから贅溜り分34の寸法Kを差し引いた寸法になる。

【0004】

【発明の目的】 しかし、車窓のように狭い空間に設けられている開口部35では、カーテンを開けたとき広く開放されることが望まれる。そこで本発明は、カーテンを開いて出来る贅溜りの嵩を少なくし、車両や建物等の窓や出入口等の開口部を広く開放することがカーテンを得ることを目的とする。本発明の他の目的は、カーテンの開閉使用時にカーテンフックがカーテン生地引っ掛かったり、カーテンフックに擦られてカーテン生地が損傷を受けることがないようにすることにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明に係るカーテンフックは、カーテンレール11を走行するランナー12に引っ掛ける輪奈状突起13が軸材14から突出しており、その輪奈状突起の先端15と軸材の周側面16の間にランナーを押し込む押込隙間17が形成されており、その先端15を含む輪奈状突起13の全体と軸材14が同一平面内に位置することを第1の特徴とする。

【0006】 本発明に係るカーテンフックの第2の特徴は、上記第1の特徴に加えて、輪奈状突起13が、軸材14を弦とする円弧状に軸材14から突出していることにある。

【0007】 本発明に係るカーテンフックの第3の特徴は、上記第1の特徴に加えて、輪奈状突起13が、軸材

14を一辺とし、その輪奈状突起13を二辺とする三角形に軸材14から突出していることにある。

【0008】本発明に係るカーテンは、カーテンレール11を走行するランナー12に引っ掛ける輪奈状突起13が軸材14から突出しており、その輪奈状突起の先端15と軸材の周側面16の間にランナーを押し込む押込隙間17が形成されており、その先端15を含む輪奈状突起13の全体と軸材14が同一平面内に位置するカーテンフック18が、その軸材14をカーテン生地19の上縁20に合わせて取り付けられていることを特徴とする。

【0009】本発明に係るカーテン装置は、カーテンレール11を走行するランナー12に引っ掛ける輪奈状突起13が軸材14から突出しており、その輪奈状突起の先端15と軸材の周側面16の間にランナーを押し込む押込隙間17が形成されており、その先端15を含む輪奈状突起13の全体と軸材14が同一平面内に位置するカーテンフック18が、所定の幅Wに芯材32によってセットされたカーテン生地の上縁20の先端部aと後端部bの2箇所に取り付けられており、それら先端部aと後端部bとの2箇所のカーテンフック18をカーテンレール11を走行するランナー12にそれぞれ連結し、所定の幅Wを保ってカーテンレールの長さ方向に開閉される隣合う2枚のパネル型カーテン22の中の1枚の上縁20の一端に連結されたランナー12a(12b)が、その隣合う2枚の中の他の1枚の上縁20の先端部aと後端部bに連結された2箇所のランナー12a・12bの間に介在することを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】本発明において、輪奈状突起13と軸材14が同一平面内に位置すると言う「平面」とは、三次元空間内の三点によって特定される幾何学的平面を意味し、輪奈状突起13や軸材14などの特定の形状を有する有体物の平らな表面を意味しない。

【0011】カーテンフック18は、鋼線を折り曲げ、或いは、プラスチック射出成形によって製造することが出来る。プラスチック製のカーテンフック18では、軸材14を補強して捻み難くするための補強板33が軸材14に接合されて一体になり、補強板33の端縁(14)が軸材14を構成される恰好にするとよい。輪奈状突起13の形状は、図2と図3と図4に図示するように、軸材14を弦とする円弧状(D字形)を成すものでも、又、図5に図示するように、軸材14を一辺とし輪奈状突起13を二辺とする三角形(ハ字形)を成すものでもよい。

【0012】輪奈状突起の先端15と軸材の周側面16は、それらの間が切り離されていれば、それらは密着していてもよく、それらの間の押込隙間17は、輪奈状突起の軸材に続く根元31を中心にして輪奈状突起の先端15が円弧を描く方向に、輪奈状突起の先端15にラン

ナー12を押し付けるとき、輪奈状突起13が捻んで先端15が回転移動し、輪奈状突起の先端と軸材の周側面の間にランナー12を差し込める程度の僅かな隙間であればよい。そのように押込隙間17を狭くすることによって、ランナー12からのカーテンフック18の離脱を防ぐことが出来る。従って、輪奈状突起13の形状は、輪奈状突起の先端15と軸材に続く根元31が軸材14の長さ方向に一定の距離を置いて並んだ円弧状(D字形)か三角形(ハ字形)にする。

【0013】カーテンフックは、カーテン生地の上端部分を折り返して出来るカーテン生地本体19と折返代23の隙間に挟み込み、カーテン生地本体19と折返代23の境目となる稜線部24に開けた孔25から輪奈状突起13を突き出し、軸材14によって稜線部24を内側から吊り上げるようにしてカーテン生地の上縁に取り付けられる(図2)。図2に図示するように、軸材14が輪奈状突起13の両端の外側に長く突き出たカーテンフック18を使用する場合、その軸材の長さLに合わせたブリーツ間隔Mをもって、カーテン生地の上縁20から下縁まで真直ぐ続く折目(ブリーツ)26・27をストライプ状に付け、カーテン生地の表側に突き出た山部を形成した折目26と裏側に向けて窪んで谷部を形成した折目27がカーテン生地の幅方向に向けて交互に並んだアコーディオン型カーテンにカーテン生地を仕立てるとよい(図1)。

【0014】図2に図示するランナー12は、そのヘッド28が内嵌するランナー走行溝10の内部に、そのランナー走行溝の長さ方向に続くガイドレール(図示せず)が設けられているカーテンレール11に装着されるものであり、そのガイドレールに摺動自在に嵌合する窪み29がヘッド28の上側に付けられている。このため、カーテンレール11の長さ方向に走行するとき、ランナー走行溝内部10のガイドレールに窪み29の両側面が当たって規制され、ランナー12がランナー走行溝10の内部で回転しない。

【0015】パネル型カーテン22では、2箇所の輪奈状突起13・13が芯材32を介して連結されたカーテンフック(13)、即ち1本の軸材14か1条の補強板33の端縁(14)から2箇所の輪奈状突起13・13が突出しているカーテンフック(13)を使用するとよい。そのようなカーテンフックを使用する場合、2箇所の輪奈状突起13・13を連結している軸材(14)や補強板33が芯材32の代わりを成すので、カーテンフック(13)の他に格別な芯材32をカーテン生地の上縁部分に取り付ける必要はない。

【0016】1本のカーテンレール11には複数枚のパネル型カーテン22が吊り下げられる。その複数枚のパネル型カーテン22a・22bの中の隣合う一方のパネル型カーテン22bの上縁の一端に連結されたランナー12a2が、その隣合う他方のパネル型カーテン22a

の上縁の先端に連結されたランナー12a1と後端に連結されたランナー12b1との先後両端の2つのランナー12a1と12b1の間に介在するようにすると、その隣合う何れのパネル型カーテン22a・22bも、互いに一方22aの両端のランナー12a1とランナー12b1の間に位置する他方22bのランナー12a2が、その一方22aの両端の何れかのランナー12a1（又は12b1）に突き当たるまで、その一方22aの両端のランナー12a1と12b1の間で自由に走行して開閉操作され、その一方のパネル型カーテン22aの何れかのランナー12a1（又は12b1）に他方のパネル型カーテン22bのランナー12a2が突き当たるときは、その隣合う2枚のパネル型カーテン22a・22bは、表裏二重に重なり合っ

てカーテンの開かれた状態になるか、又は、左右隣合っ

て並んでカーテンの閉じられた状態になる。
【0017】
【発明の効果】本発明に係るカーテン21（22）では、カーテン生地の上縁の軸材14と輪奈状突起13が同一平面内にあり、ランナー12に引っ掛けるための輪奈状突起13がカーテン生地の表側に突出することがない。このため、カーテンを開いて出来る襞溜り34は、その寸法Kがカーテンの厚み分

か、又は、カーテンフックの輪奈状突起13や軸材14の太さ分だけの嵩の低いものとなり、襞溜り34によって車両や建物の開口部35が狭められることはなく、カーテン21を広く開閉することが出来る。
【0018】本発明に係るカーテンフック18（輪奈状突起13）はカーテン生地の表側に突出することはないので、カーテンフック18を含むカーテン全体21（22）にアイロンを当ててアイロン仕上げをすることが出来、洗濯時にもカーテンフック18（輪奈状突起13）が邪魔にならず、一枚のシートを折り畳むように折り畳んで包装することも出来るなど、カーテンの取り扱いが楽になる。

【0019】特にカーテン生地の上縁に装飾用襞山のないアコーディオン型カーテン（プリーツカーテン）では、襞溜り34の寸法Kをカーテン生地の厚み分だけにする事が出来、車窓に取り付けて圧迫感を与えない車両用カーテンを得ることが出来る。

【0020】パネル型カーテンでは、開閉操作時に隣合う一方のパネル型カーテン22bのカーテンフック18が他方のパネル型カーテン22aの上縁22に強く触れ合うことはなく、一方のパネル型カーテン22bのカーテンフック18が他方のパネル型カーテン22aのカーテンフック18に突き当たるまで開閉してもカーテンフック同士が引っ掛かったりすることがなく、パネル型カーテン22を広く開閉することが出来る。従って、1本のカーテンレール11に複数枚のパネル型カーテンを、その隣合う一方のパネル型カーテン22bの上縁の

一端に連結されたランナー12a2が、その隣合う他方のパネル型カーテン22aの上縁の先端に連結されたランナー12a1と後端に連結されたランナー12b1との先後両端の2つのランナー12a1と12ab1の間に介在するように吊り下げても、何ら不都合を生じない。

【0021】本発明によると、複数枚のパネル型カーテンを1本のカーテンレール11に吊り下げることが出来るので、既設の1本のカーテンレールに吊り下げられている既存の通常のカーテンに代えてパネル型カーテンを使用することが出来、その使用にカーテンレールを増設したり取り替える必要はなく、その使用によって居住空間が狭められることもなく、パネル型カーテンの普及を図る上でも本発明は頗る好都合である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るカーテンの斜視図である。

【図2】本発明に係るカーテンの上縁部分の拡大斜視図である。

【図3】本発明に係るカーテンフックの斜視図である。

【図4】本発明に係るカーテンフックの斜視図である。

【図5】本発明に係るカーテンフックの斜視図である。

【図6】本発明に係るパネル型カーテンの斜視図である。

【図7】従来のカーテンの斜視図である。

【図8】カーテンの使用状態における正面図である。

【符号の説明】

10 ランナー走行溝

11 カーテンレール

12 ランナー

13 輪奈状突起

14 軸材

15 輪奈状突起の先端

16 軸材の周側面

17 押込隙間

18 カーテンフック

19 カーテン生地（本体）

20 上縁

21 カーテン（アコーディオン型カーテン）

22 カーテン（パネル型カーテン）

23 折返代

24 稜線部

25 孔

26・27 折目

28 ヘッド

29 窪み

30 隙間

31 根元

32 芯材

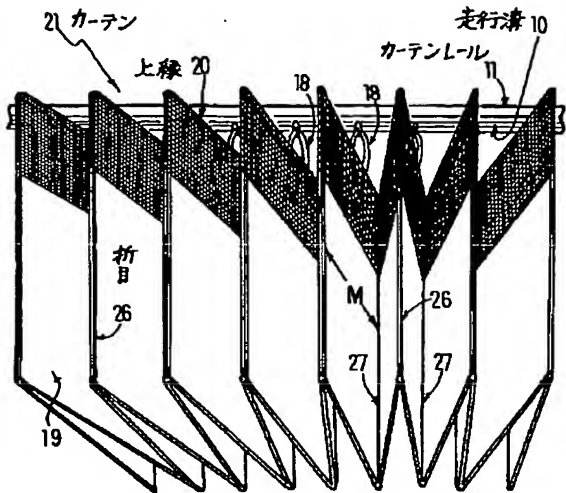
33 補強材

34 襞溜り

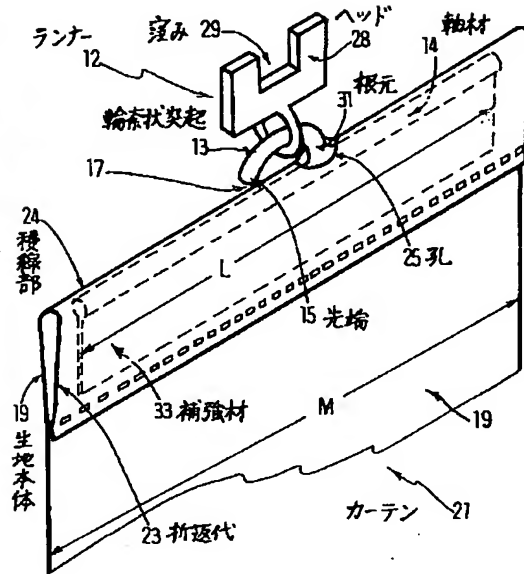
35 開口部(車窓)
 36 従来のカーテンフック
 37 従来のカーテンフックの先端
 38 下向き鉤
 W カーテンの幅

L 軸材の長さ
 M プリーツ間隔
 K 襞溜りの寸法
 H 下向き鉤の突出高さ

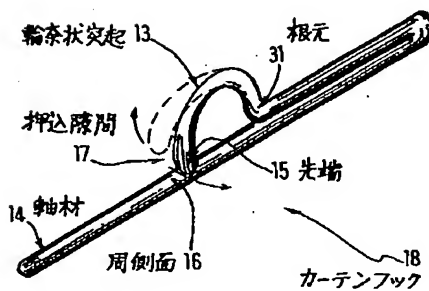
【図1】



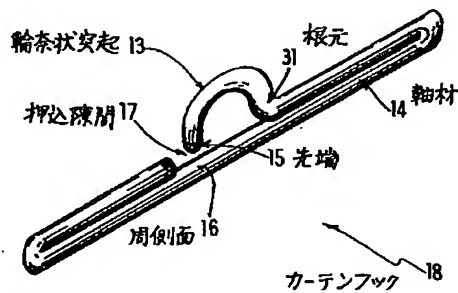
【図2】



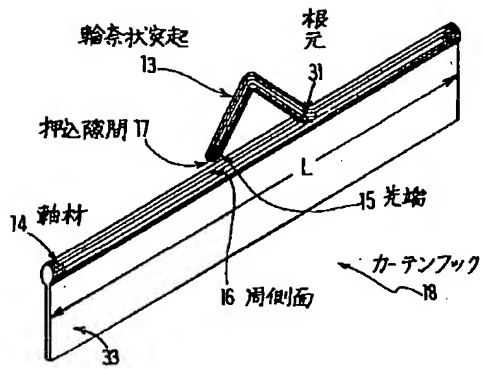
【図3】



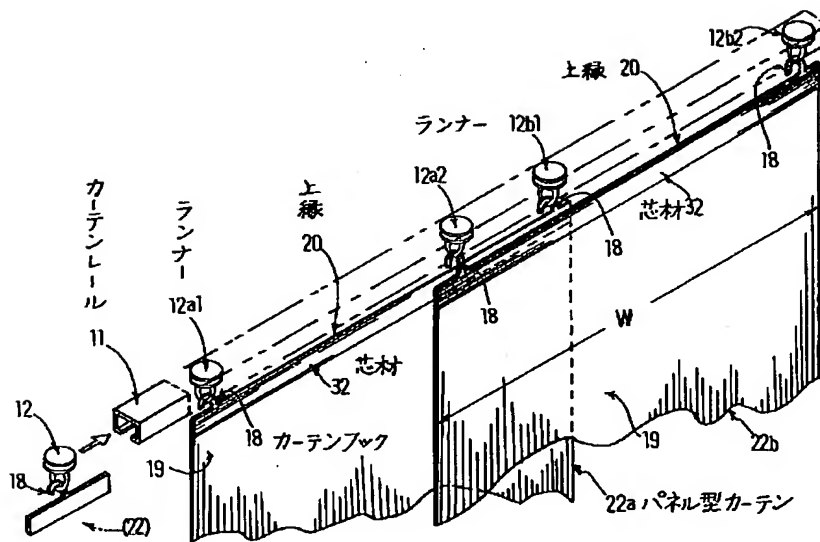
【図4】



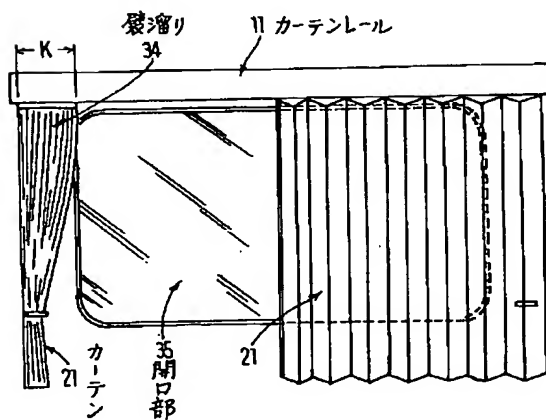
【図5】



【図6】



【図8】



PAT-NO: JP02003144306A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003144306 A

TITLE: CURTAIN AND CURTAIN HOOK

PUBN-DATE: May 20, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
YAMANAKA, KIYOHIRO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KAWASHIMA TEXTILE MANUF LTD	N/A

APPL-NO: JP2001348038

APPL-DATE: November 13, 2001

INT-CL (IPC): A47H013/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To widely open apertures, such as windows and inlets and outlets of vehicles, buildings, or the like, by lessening the bulk of pleat pools made by opening a curtain and to prevent curtain hooks from being hooked to a curtain fabric and to prevent the curtain fabric from being rubbed and damaged by the curtain hooks when the curtain is used by opening and closing the same.

SOLUTION: Tailor's loop-like projections 13 for hooking a curtain rail 11 to traveling runners 12 are projected from a shaft member 14 and a pushing clearance 17 for pushing the runners between the front ends 15 of the tailor's loop-like projections 13 and circumferential flanks 16 of the shaft member is formed. The curtain hooks in which the entire part of the tailor's loop-like projections 13 inclusive of these front ends 15 and the shaft member 14 exist within the same plane are mounted by aligning the shaft material 14 to the top edge 20 of the curtain fabric 19.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO

PAT-NO: JP02003144306A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003144306 A

TITLE: CURTAIN AND CURTAIN HOOK

PUBN-DATE: May 20, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
YAMANAKA, KIYOHIO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KAWASHIMA TEXTILE MANUF LTD	N/A

APPL-NO: JP2001348038

APPL-DATE: November 13, 2001

INT-CL (IPC): A47H013/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To widely open apertures, such as windows and inlets and outlets of vehicles, buildings, or the like, by lessening the bulk of pleat pools made by opening a curtain and to prevent curtain hooks from being hooked to a curtain fabric and to prevent the curtain fabric from being rubbed and damaged by the curtain hooks when the curtain is used by opening and closing the same.

SOLUTION: Tailor's loop-like projections 13 for hooking a curtain rail 11 to traveling runners 12 are projected from a shaft member 14 and a pushing clearance 17 for pushing the runners between the front ends 15 of the tailor's loop-like projections 13 and circumferential flanks 16 of the shaft member is formed. The curtain hooks in which the entire part of the tailor's loop-like projections 13 inclusive of these front ends 15 and the shaft member 14 exist within the same plane are mounted by aligning the shaft material 14 to the top edge 20 of the curtain fabric 19.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO